新川会通信
第58号
すまいる

発　行
社会福祉法人新川会
〒930-0362
上市町稗田字七郎谷１-32
Tel (076) 472-1118
Fax (076) 472-5391
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp
HP http://www.niikawakai.jp/
発行責任者　山 岸 親 史

テーマ
日中活動や商品紹介について

就労継続支援B型事業所として

さつき苑施設長　嶋 作 直 美

令和六年四月から、さつき苑は就労継続支援B型（以下、就B）の障害サービス事業所として再スタートしました。新川会では地域の皆様に、滑川市・立山町・上市町の就Bをご利用いただき、受託作業や農福連携事業、自主製品の制作に職員と利用者一体で日々仕事に励んでいます。障害者総合支援法における就Bとは「一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行います」とあり、これは「働く意欲」のある方であればみなさんどうぞ活用してください！という制度であると解釈しています。「働く意欲」はあって当たり前ではなく、毎日の積み重ねから生まれるものだと思います。日々の仕事の中で、いかに達成感を得て満足できるか、また、「ありがとう」と感謝の言葉をかけられる場面は、一人一人が主役であり、一段と「意欲」が出る場面ではないかと考えます。

就労の喜びを実感できると、それが次への意欲に繋がると感じます。「意欲」は技術でもなく上手下手でもありません。皆さんの健康な体と心が生むもので、そのためには基盤となる生活は外せません。ご家族、地域の皆様、事業所などが連携して支援していくことが必須であり、利用者さんの様々な「意欲」を見逃すことなく一緒に喜びあえるようなサービスを継続して提供できるように、さつき苑は今後も邁進していきたいと考えています。

就Bの多くの施設では、受託作業と共に、自主製品つくりの生産活動を行っています。製品を作って販売し、お客様に喜んでいただくことは簡単ではなく、それなりの責任も伴います。就Bに関して言えばその売り上げが利用者さんの工賃に直結します。製作しただけでは満足できず、質の向上に努め、また、どのように商品を見ていただくか、いかに目に留まるように工夫するのかも求められます。

事業所としての特色をいかにアピールするか、ということに日々励み、利用者さんの個性や技術をいかんなく発揮し、それをいかに地域の皆様に知っていただくことが出来るか、ということも私たち就B事業所の職員の務めだと思います。

利用者の皆さんは、商品に対し「売れた？」「どうだった？」とよく聞かれます。やはり自分が何らかの仕事に関わった製品には思い入れがあり、お客様に求められると大きな喜びになります。作った製品がお客様のもとに届いて喜んでいただくことで「生産活動」が成り立つため、しっかりその役割を果たせるよう日々みんなで力を合わせ生産活動に励んでいます。

特集 さつき苑

農福連携事業

さつき苑は今年度、地元稲作農家さんと協力して農福連携事業を行っています。植え付けや収穫の忙しい時のみ?と思いがちですが遡れば今年度に入りすぐに依頼がありました。

四月に入り、最初は稲の播種（はしゅ）〈種まき〉作業です。機械化された作業を見ながら最初はこのスピードについていけるのか心配でしたが、さすがはさつき苑の皆さんでした。すぐに順応して機械を負かす勢いで作業を進めていました。最初は「疲れた。」「腰が痛い。」などと言っていましたが、三～四日目にもなってくると慣れたもので自分のやりやすい仕事のやり方のコツを見つけたようで楽しそうに作業する様子が見られました。

播種作業の次は水田周りの草刈りです。さつき苑には草刈り機を使用できる利用者が二名います。これが涼しい時期ならいいのですが六月～九月の一番暑い時期に炎天下で作業するのがとてもつらい作業となっています。しかしながら黙々と頑張ってくれています。二人とも全く手は抜かず仕上がった畔を見るととても感心させられます。もちろん熱中症にならないよう適時、休憩や水分補給も欠かさず行っています。仕上がった畔を見て農家さんから「ありがとう、きれいだわ」「またよろしくね。」と言われた時にはうれしく思います。尚、写真の様に苗箱洗いなども協力して行っています。

今後も農福連携事業を継続していき、地域に溶け込めるようなさつき苑を目指します。

施設外就労

さつき苑では今年度九月より施設外就労を行っています。さつき苑周辺にある宿泊施設「つるぎ恋月」にて館内や部屋の清掃、宿泊準備などを請け負っています。

まずは最初の段階として大変だったのが仕事を覚えることでした。従業員の方に丁寧に教えてもらいながら仕事を覚えています。施設外の仕事ということもあり緊張していますが皆さん、地域の一員として頑張って仕事をしておられます。

（松岩主任　記）

四ツ葉園だより

工芸班十月カレンダー作成

今年度から班活動ごとにカレンダーを作成することとなり、十月の担当は工芸班でカレンダーを作成しました。私達、工芸班は班活動にて晴れれば歩行運動、雨天の時は木磨きを行っています。この木磨きの時間を使ってカレンダーの日付や曜日の部分の木を一生懸命に磨きました。また、ＳＤＧｓで行っている立山寺に行き、清掃活動にて枝を集めてカレンダーの枠を採取しに行きました。

今回、工芸班らしいカレンダーを作るにはどうしようか悩みました。班活動時に木磨きを行っているので何か木を使用した物がいいのかと思いました。そこで、約縦75㎝、横１１２㎝のベニヤ板が四ツ葉園にあったので、これを使用してカレンダー作成にあたりました。職員と利用者方と一緒に寸法を測って曜日と日付の間隔を線で引きました。

曜日の漢字と日付の丸い木は四ツ葉園に落ちている木を拾い職員が丸に切ったものを利用者方と職員で磨き、数字を書きました。枠の部分の木は立山寺に行った際、落ち葉を拾うと同時に枝木を拾ったものを使用しました。枝は曲がっているものが多く、少しずつ折って真っすぐに貼っていくのが苦労しました。

九月からカレンダーを作成してきましたが、工芸班らしいカレンダーが作れました。このカレンダーは四ツ葉園支援課のホワイトボードに吊るし四ツ葉園の皆さんが毎日、日付や曜日、行事等をこのカレンダーで確認してくれたら幸いです。十月に園祭でもこのカレンダーを多くの来場者の方が足を止め見てくださいました。

（野城支援員　記）

交通安全週間のマスコット作りについて

毎年、秋の全国交通安全週間に合わせて四ツ葉園の家政班では期間中に配布するマスコット作りを行っています。年度初めの春頃から今年はどんなマスコットを作ろうかと皆で話し合いを行います。１００個のマスコットを作らなければならないので、作る物が決まってからは、すぐに製作にとりかかります。今年はネクタイを再利用したエコなコインケーススラップを製作しました。利用者の方には袋詰めやシール貼りを手伝って貰っています。ネクタイの種類や裁断した部分によって柄が違うところも、受け取る方のお楽しみとなれば嬉しいです。

完成したマスコットは、眼目山立山寺にて交通安全の祈祷を行い、上市区域交通安全協会に贈呈しました。地域の皆さんに少しでも四ツ葉園の活動を知ってもらう機会になればと思います。

（五十里支援員　記）

雷鳥苑だより

雷鳥苑の自主製品作りは、就労継続支援Ｂ型と生活介護の利用者さんがそれぞれの日中活動の中で分担を決めて行っています。

上市町のマックスバリュや立山町まちなかファームに卸している加工食品は、乾燥唐辛子やにんにくパウダー、柿のドライフルーツ等があります。

唐辛子は生活介護の利用者がプランターに苗植えをし、肥料をあげました。昨年は中庭でプランター栽培していましたが、日が当たらず株がうまく育たなかったため、今年は玄関先にプランターを並べて栽培しました。

肥料のあげ方や株の手入の仕方を農福連携アドバイザーの方に指導していただき実戦してみたところ、昨年より実が大きく育ちました。

育てた唐辛子は就労Ｂの利用者が、収穫、乾燥して一味や輪切り唐辛子に加工しています。綺麗に下処理をしてから乾燥をかけ、種を取ったり輪切りしたりするのはとても細かい作業ですが、それぞれ得意な工程があり、楽しんで作業に取り組んでいます。

今後も農福連携アドバイザーや、インターネットで情報を集めて改良をし、良い製品を作っていきたいと思います。

加工食品のパッケージは、種田支援員（臨）が作成しています。オリジナルのイラストと文字が目を引く仕上がりになっています。

（金川支援員　記）

さつき苑だより

さつき苑では木工製品や食品加工品などいろんな作品を作っていますが、その中でも様々な種類の入浴雑貨の人気があります。種類としては「贅沢なよもぎ風呂」「笹の香り」「当帰の香り」「ひのきの香り」「ミントの香り」「ラベンダーの香り」などバリエーション豊かな入浴雑貨です。特に「贅沢なよもぎ風呂」は厳選したよもぎだけを選別して洗浄→乾燥→粉砕と細かな工程を経て作られます。よもぎはどこにでも生息しているようですが探すとなるとなかなか大変です。特に春先が勝負で綺麗なよもぎを収穫できる時期はわずかな時期しかありません。その厳しい中で出来上がった入浴雑貨は自然な香りに包まれ良い香りです。その他にも今年度は当帰の生産量を多くしています。「当帰の香り」は体の芯から温まる入浴雑貨でこちらもリピーターがたくさんおり人気商品となっています。

ご購入されたい方は是非さつき苑までお問い合わせください。

（松岩主任　記）

パック詰め中

様々な入浴雑貨

つつじ苑だより

生活介護班でコースター作りをしています。既存のコースターの窪みにデコレーションボールを並べてカラフルなコースターにしています。以前のコースターは購入していたのですが、今年度はさつき苑の利用者さんに板を切ってもらい、手作りにしています。木を紙やすりで磨く作業も利用者さんがされています。今は丸いコースターだけですが色々な型ができるようにしたいです。

就労B班でブルーベリーの栽培をしています。土の入れ替えや水やり、剪定作業などを職員と一緒に頑張っています。土の配合は役割を決めて利用者さんが進んで行っています。

夏にたくさん実がなりました。まだジャムなどの商品作りには至っていませんが、利用者さんたちは自分たちの育てたブルーベリーをとても大切にされています。八月末には「夏の疲れをふきとばそう！」とかき氷作りをした時にブルーベリーをトッピングして食べました。皆さん笑顔で美味しいと食べておられました。

（村上支援員　記）

小窓だより

今年四月に開所し、早半年以上が経ちました。小窓では日中活動の班を「たてやま」・「つるぎ」・「ありみね」の３グループに分かれて利用者の個性、能力に応じた班分けを行い、個別作業に取り組んでいます。共通している目標は〝落ち着いて過ごせること〟です。そのために、皆さんの障害特性や興味関心を理解し、保護者の方からのお話や、過去の皆さんの様子をお聞きし一人一人に合った作業を提供しています。また、作業道具だけでなく、集中した環境で活動ができるよう、班によってはパーテーションの設置や席の固定化、絵カードの使用などの工夫を行っています。

また、この施設が四ツ葉園の敷地内にあることで、外周の歩行運動や体育館の使用、ミュージックケアに参加するなど日々連携を取りメリハリがつくよう計画を立てています。

十月に行われた四ツ葉園祭に向けて、皆で創作活動を行いました。これまで個別での活動を行っていましたが、初めて小窓の皆さんが全員で携わった作品となりました。

まだ始まったばかりの小窓です。利用者の皆さんが小窓で過ごす時間を楽しいと思えるよう支援内容を充実させていきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いします。

（渡辺支援員　記）

グループホームだより

日中支援

つつみだにの家と第２つつみだにの家では休日の日中、支援員が入り、昼食作りや余暇支援、環境整備などを行っています。また月に一回、絵画教室を実施したり、行事やイベントがあれば参加しています。本人の意思決定を尊重しながら、様々なことにも自立して意欲的に取り組むことができるように支援を行うとともに、たくさんの挑戦や経験を積み重ね、自分らしく、そして楽しく生活をしていただけたらと思います。

フライングディスク大会

令和六年九月二十二日（日）富山県総合運動公園で第24回富山県スポーツ大会のフライングディスク競技会が行われました。

今年はアキュラシーとディスタンスの２種目が行われ、グループホームからは参加希望者13名が競技に参加しました。大会に向けて練習を積み重ね、本番を迎えました。「去年よりも記録を伸ばしたい」「楽しむ」など、それぞれがいろんな思いをディスクに込めて競技に臨まれていました。本番当日はあいにくの雨でしたが、皆さん最後の一投まで諦めず、競技に挑まれました。この大会で「嬉しい」「悔しい」など、いろんな感情や多くの経験をできたことと思います。この思いを大切にしながら、来年の大会に向けてまた、頑張っていきましょう。

（柿沢支援員　記）

意思決定支援の取り組み

セレクトメニューの日

今年度の障害福祉サービス等報酬の改定において、意思決定支援の推進として、サービス担当者会議・個別支援会議等への本人参加の原則化や、地域移行の意向確認の導入が示されました。新川会では、すでにご本人も会議に参加していただくこと、これから先に暮らしたい住まいの場をお聞きすることに取り組み、利用者の意思決定支援に配慮するよう努めています。また、日常生活における意思決定支援の場の中でも楽しいところからもアプローチしようと考え、健康食生活向上委員会が「セレクトメニューの日」を今年度２回企画実施しました。

普段の食事でのセレクトは初めての試みです。２名の栄養士と話し合い、１回目は「丼物」、２回目は「ラーメン」でＡセット・Ｂセットのメニュー表を作り、選択肢を絞った中からメニューの写真を手がかりに選べるようにしました。セットメニューにしたことで、メインメニューで決められなくてもデザートで好きな方を選べるよう工夫しました。利用者が安心して自信をもって、かつ楽しんで自分の意思表示ができたのではないかと思います。また、意思確認の難しい利用者の場合は、どちらのメニューに目線が多く行っているか観察したり、普段の好きな食べ物から推測したりして、選好を推定する配慮に努めました。厨房も大変だったと思いますが、２回とも無事に実施することができました。

これからも、利用者の皆さんが自分の意思が出せる機会を作り、一人ひとりの意思を尊重しながら、利用者の皆さんが自分の気持ちを伝えたい意欲に繋げていきたいと思います。

（工藤主任　記）